企業探訪
TOP INTERVIEW

株式会社MTsteel
(旧)株式会社森下鉄工所

代表取締役　森下　兼信 氏
取締役統括工場長　志賀　剛 氏

地域No.1の板金メーカーを目指して

住　　所：茨城県日立市若葉町1-7-1　(本社)
茨城県日立市石名坂町2-42-1 (日立南太田工場)
茨城県那珂郡東海村須和間1194-2　(那珂工場)
創　　業：1953年
従業員数：71名
営業品目：薄物板金加工、溶接仕上げ一式、工業用ゴム製品、工業用パッキン製品、小物製缶、機械加工一式、非鉄金属加工(真鍮板、ステンレス板、アルミ板)、下塗り塗装、焼付塗装、部品組立

インタビュー日：2021年11月18日
〔聞き手：筑波総研㈱ 代表取締役社長 野口稔夫〕
〔文・写真：筑波総研㈱ 主任研究員 冨山かなえ〕
取引支店：㈱筑波銀行 日立支店

これまでの歴史を振り返る森下社長

日立南太田工場内部の様子

建設機械（イメージ）

インタビューの様子

創業63年、設立51年
老舗板金メーカーとして走り続ける

当社の歴史は、1953年に私の曾祖父である森下英雄が㈱日立製作所を定年退職後に、重電関係の板金工場として開業したことに始まります。

その後、森下に婿養子に入った私の父が50年前に2代目の社長として跡を継ぎ、1970年に法人化しました。父は㈱日立製作所との部品作りの取引だけでなく、都内から県南部に進出してきた日立建機㈱との取引を開始しました。今考えれば、先見の明があったと感じています。

私は国士舘大学を卒業後、1992年に当社へ入社し、経理部門に配属され様々な経験を積みました。

その後、日立南工場の建設計画が立ち上がった頃、父が病に倒れ、実務関係は全て私が担当することになりました。実はその頃の当社は債務超過であり、誰にも継がせられない状況だったため、そのまま父をトップに据え、私が財務状況の改善に邁進していきました。

その間、筑波銀行にもお世話になったおかげで、財務体制が強化され、無事、日立南工場も着工した中で、2011年9月、私が3代目の社長に就任しました。

長年の実績により国内トップ
メーカーから厚い信頼を獲得

現在、当社は日立建機や日立製作所を主なお取引先とし、建設機械や発電機械部品の板金、溶接、塗装、組立を一貫して生産できる体制を構築しています。

日立建機からの製造委託品は、エンジンカバーなど、表からは見えないものがほとんどですが、機械を動かす上で重要な部品です。

当社が加工・製造した部品が、社会インフラを支える上で必要不可欠な製品に使われていることを、非常に誇らしく感じています。

企業の文化として浸透した「JIT生産」で在庫を持たない経営

当社では、常に「働きやすい職場」であることを重視しています。従業員にはなるべく負担がかからないように、先代の時から徐々に作業の自動化を進めてきました。

具体的には、バーコード導入による工程進捗管理、生産性の数値化をはじめ、2001年からは受注状況を一元管理し、1日の作業分をその日のうちに生産する「JIT(ジャストインタイム)生産」を導入しました。

JIT生産は、「必要なものを、必要な時に、必要な分だけ生産する」方法であるため、在庫を抱えるリスクがありません。お客様のご要望に合わせて、毎日400～500アイテム、年間では約4,000アイテムを製造・納品しています。

JIT生産導入時は、「一気に同じ製品を製造した方が合理的だ、段取りを変えるのが大変だ」といった声が現場からあがり、本格移行まで5年かかりましたが、今では当社の「文化」として根付いています。

株式会社リーデンと「株式会社MLカチオン」を共同設立

当社は熟練工の技能が高く、近隣での競合企業も少ない状況です。また、板金工場はプレス専門の場合が多いですが、当社では塗装も可能なため、大変好評をいただいています。

2017年4月にはグループ会社として、株式会社リーデン(本社：台東区)と共同で「株式会社MLカチオン」を設立しました。Mは森下、Lはリーデンを意味します。同社では、当社の製造ノウハウと、リーデンの組立ノウハウを融合し、県内でも数少ない「カチオン塗装」を導入しています。

また、MLカチオンで受注した業務の一部を当社が請け負うことで、当社は営業活動をせず、業務量を増加させることができるという新しい「商流」が生まれました。

（写真提供：森下鉄工所）　地域交流会の様子

「地域交流会」を開催し地域の方々との相互理解を深める

当社は、地域貢献活動の1つとして、2014年から、毎年5月の連休明けに、日立南太田工場で「地域交流会」を開催しています。新型コロナウイルス感染症の流行により、残念ながら、ここ数年は中断しています。

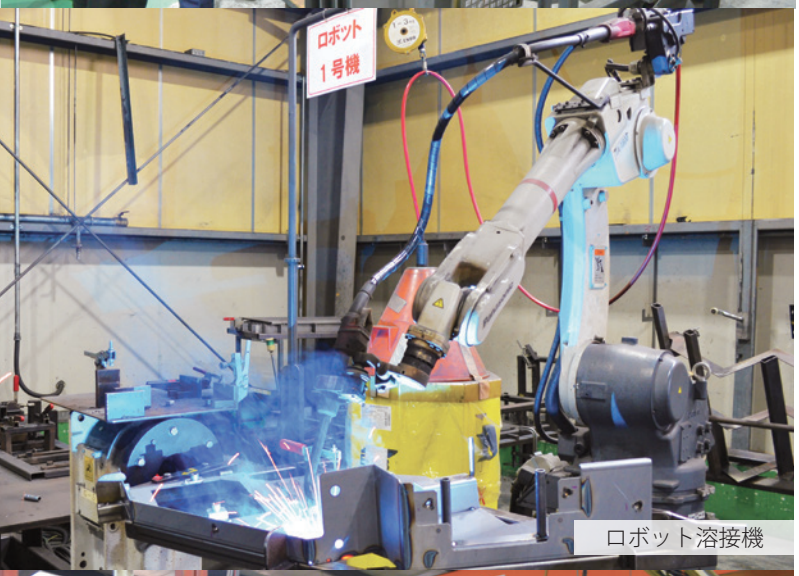
地域交流会では、常陸太田市出身の作曲家マシコタツロウ氏を迎え、工場を開放し、食事や飲み物などを多数ご用意して、地域の皆様をおもてなししています。

工場付近に住む方々に工場内を見ていただき、当社の事業内容やきれいに整理整頓された現場を見ていただくことで、当社をより深く理解していただく良い機会になっています。

また、従業員が家族を連れてくることで、自分の家族がどのような職場環境で働いているのかを理解することができ、安心に繋がっていると感じています。

（写真提供：森下鉄工所）　地域交流会の様子

製造した製品について説明する森下社長



ロボット溶接機

ベトナム人実習生の作業の様子

集合写真

「ローカル オンリー1 ナンバー1」地域で1番の板金メーカーを目指して

人材確保の戦略として、現在、ベトナム人実習生を20名受け入れています。導入時は言葉の壁が立ちはだかりましたが、8期目となった現在では、ベトナム人同士による業務引継も行っているため、事業が滞ることは全くありません。

また、海外進出については、今のところ全く考えていません。当社の事業は大部分が装置によって処理される「装置産業」であり、常に最新鋭の設備導入を行うため、海外企業とM&Aを行っても、その企業の機械設備を一新するなどのリスクを負ってしまう可能性があります。

それよりも、地元貢献できる企業を目指すため、全社で「ローカル　オンリー1　ナンバー1」という目標を掲げています。

2022年1月、「株式会社MTsteel」として再出発

2022年1月、当社は「株式会社森下鉄工所」という社名を変更し、「株式会社MTsteel」として再出発します。

鉄工所と聞くと、トンチンカンコンとハンマーを叩く音が聞こえる「昔ながらの鉄工所」というイメージが浮かぶと思いますが、横文字の「MTsteel」という英語表記を使うことで、当社のさらなるイメージアップを図って行きたいと考えています。

そして、私が最も大切にしていることは「取引先、従業員、当社、地域」という4つがお互いにWin-Winになること、つまり、「4win」の関係です。この「4win」を末永く、次の50年まで継続できるよう、今後も痒い所に手が届く、地域で求められるナンバー1の板金メーカーを目指し、従業員とともに邁進して参ります。

◀森下社長(右から2番目)、志賀取締役(中央)、
谷田部製造部長(左から2番目)、
筑波銀行日立支店 岡部支店長(左)、聞き手・野口稔夫